

無人航空機操縦者技能証明 学科講習確認問題集(二等)

問題 1

無人航空機操縦士の国家試験に関する内容について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 登録講習機関(国が登録する民間機関)で修了審査に合格した場合には実地試験が免除される。
- B) 無人航空機操縦者技能証明を受けるためには、原則として学科試験、実地試験及び身体検査に合格することが必要である。
- C) 指定試験機関においては、実地試験を受けてから学科試験を受ける必要がある。

問題 2

無人航空機操縦士の試験に関する内容について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 一等免許は二等免許の上位にあたることから、当然ながら一等免許取得者は同時に二等免許も包含する。
- B) 一等免許は二等免許の上位にあたるといえども、一等免許と二等免許は違う免許なので、別々に取得しなければならない。
- C) 技能証明のための試験は、国が指定した民間の試験機関により実施される。

問題 3

無人航空機操縦者の心得として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 操縦者は、経験と能力に裏付けられた的確な判断を行うことが求められる。
- B) 飛行する際は、自然を侮らず、謙虚な気持ちを持つことが大切である。
- C) 飛行する事前の準備は、趣味のために飛行させる場合は必要ないが、業務で飛行させる際は必ず実行することが求められる。

問題 4

無人航空機操縦者の心得として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 法令やルールを遵守するだけでなく、一般社会通念上のマナーを守ること求められる。
- B) 飛行に際して、近隣へ騒音による迷惑とならないように、プロペラガードを装備する必要がある。
- C) 飛行するにあたっては、危険な状況を乗り切ることよりも、危険を事前に回避することの方が重要である。

問題 5

無人航空機操縦者の心得として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 補助者は操縦者の操縦の妨げにならないように助言はしないよう心がけることが大切である。
- B) 操縦操作に長けていても、第三者や関係者に危険を感じるような操縦をしない。
- C) 操縦者は、飛行を開始してから終了するまで、全てに責任を問われる。

問題 6

無人航空機操縦者の心得として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) ベテラン操縦者は、体調が悪い場合でも注意力が散漫になることや、判断力が低下することはない。
- B) 睡眠不足や疲労が蓄積した状態で操縦しないなど体調管理に努める。
- C) 飛行前に天候が悪化して飛行が困難になると予想される場合でも、実際に悪化するまでは分からないので気にせずに飛行させる。

問題 7

安全な飛行の確保について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機の飛行を行う関係者であることが容易にわかるような服装を心がけることが大切である。
- B) 操縦者は第三者に迷惑をかけることの無いように、常に第三者に分からないような目立たない服装を心がける。
- C) 操縦者は、必要に応じてヘルメットや保護メガネなどの保護具を装備する。

問題 8

服装に関する注意点で、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 素肌(頭部を含む)の露出の少ないものを着用する。
- B) 操縦するにあたっては、動きやすい服装にする。
- C) 操縦に自信があれば、ヘルメットや保護メガネなどの保護具は必要ない。

問題 9

安全な飛行の確保について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行前には必ず機体の点検を行い、気になるところがあれば飛行終了後に必ず整備する。
- B) 飛行前に、最新の気象情報(天気、風向、警報、注意報等)を収集する。
- C) 地域によっては、地方公共団体により無人航空機の飛行を制限する条例や規則が設けられていたり、立入禁止区域が設定されていたりする場合があることから、飛行予定地域の情報を収集する。

問題 10

飛行中の注意について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 危険な状況になった場合に、適切に対応できるだけの能力を身に付けておくことは必要であるが、危険な状況になる前にそれを察知して回避することが操縦者としてより大切である。
- B) 衝突防止装置を搭載する機体であれば、鳥等を含む障害物に対する注意は要しなくてもいい。
- C) 法令や条例に定められたルール以外にも、ある地域において限定的に行われている地域の特性に応じたルールや社会通念上のマナーについても遵守する。

問題 11

事故が起きた時の対応について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 事故を起こしたら、慌てず落ち着いて、ケガの有無や、ケガの程度など、人の安全確認を第一に行う。
- B) 機体が墜落した場合には、地上又は水上における交通への支障やバッテリーの発火等により周囲に危険を及ぼすことがないように、機体の回収を最優先に考える。
- C) 事故の原因究明、再発防止のために飛行ログ等の記録を残す。

問題 12

事故が起きた時の対応について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 事故が発生した場合には、無人航空機を飛行させる者は、直ちに無人航空機の飛行を中止する。
- B) 負傷者がいる場合にはその救護・通報、事故等の状況に応じた警察への通報、火災が発生している場合の消防への通報など、危険を防止するための必要な措置を講じなければならない。
- C) 事故が発生した日時及び場所等の必要事項を国家公安委員長へ報告しなければならない。

問題 13

無人航空機の定義に関する内容について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 無操縦者航空機は無人航空機の一つである。
- B) 100g未満の模型航空機も無人航空機に分類される。
- C) 「重量」とは、無人航空機本体の重量及びバッテリーの重量の合計を指しており、バッテリー以外の取り外し可能な付属品の重量は含まない。

問題 14

無人航空機の定義として誤っているものを次から一つ選びなさい。

- A) 構造上人が乗ることができない航空機。
- B) 重量が 200g以上のもの。
- C) 遠隔操作又はプログラムによる自動操縦で飛行させることができるもの。

問題 15

航空法における無人航空機の定義の解釈について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 人が乗り組まないで操縦できる機器であっても、航空機を改造したものなど、航空機に近い構造、性能等を有している場合には、無人航空機ではなく、航空機に分類される。
- B) 無人航空機の定義において、「構造上人が乗ることができないもの」とは、人が乗ることができる座席の有無を意味するもので、当該機器の概括的な大きさや潜在的な能力を含めた構造、性能等により判断される。
- C) 気球やロケットなどは航空機や無人航空機には該当しない。

問題 16

航空法の処分に関する内容について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 航空法(昭和 27 年法律第 231 号)への違反があった場合は、技能証明の取り消し、又は効力停止(期間は 2 年以内)の行政処分の対象となる。
- B) 航空法違反があった場合には、行政処分だけでなく刑事罰の対象になることもある。
- C) 操縦者は、被害者に対して民法に基づく損害賠償責任までは求められない。

問題 17

衝突や墜落等の事故を起こしたときに、操縦者が負うことのある責任について、最も適切なものを選びなさい。

- A) 「刑事責任」と「民事責任」だけである。

- B) 「民事責任」と「行政処分」だけである。
- C) 「刑事責任」と「民事責任」があり、「行政処分」を受けることがある。

問題 18

無人航空機の飛行の計画について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 事前にドローン情報基盤システムに通報することが困難な場合に限り、事後に通報する必要はない。
- B) 前日に飛行するときや飛行経験が複数回ある場所を飛行する場合のみ飛行計画を立てることは求められない。
- C) 無人航空機の性能、操縦者だけでなく補助者の経験や能力などを考慮して無理のない計画を立てる。

問題 19

無人航空機の飛行計画の作成について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) ベテランパイロット且つ飛行現場を熟知している場合は、必ずしも飛行計画の作成は必要ない。
- B) 近くを飛行するときや飛行経験のある場所を飛行する場合でも、必ず計画を立てる。
- C) 何かあった場合の対策を考えておく(緊急着陸地点や安全にホバリング・旋回ができる場所の設定等)。

問題 20

飛行予定地域や周辺施設への調査の内容について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 日出や日没の時刻等
- B) 離着陸する場所の状況等
- C) 飛行日翌週の気象情報等

問題 21

飛行予定地域や周辺施設への調査の内容について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 標高(海拔高度)、障害物の位置、目標物等
- B) 日出や日没の方角等
- C) 地上の歩行者や自動車の通行、有人航空機の飛行などの状況等

問題 22

無人航空機の登録制度について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 全ての無人航空機(重量が 100g未満のものは除く。)は、国の登録を受けたものでなければ、原則として航空の用に供することができない。
- B) 機体登録をしていれば、登録記号を表示することまでは求められない。
- C) 機体登録の有効期間については、第一種は 1 年、第二種は 3 年である。

問題 23

無人航空機の登録制度について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機の登録制度の目的の一つとして、事故発生時などにおける所有者の把握がある。
- B) 機体登録をした機体は、一律にリモート ID 機能の搭載は免除される。

- C) 登録記号は、機体の容易に取り外しができない外部から確認しやすい箇所に耐久性のある方法で鮮明に表示しなければならない。

問題 24

無人航空機の登録制度について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 機体登録は、原則全ての無人航空機に必要であり、たとえ製造者が機体の安全に懸念があるとして回収(リコール)しているような機体であっても全て登録をしなければならない。
- B) 遠隔操作又は自動操縦による飛行の制御が著しく困難である無人航空機は、機体登録を受けることができない。
- C) 表面に不要な突起物があるなど地上の人などに衝突した際に安全を著しく損なうおそれのある無人航空機は、機体登録を受けることができない。

問題 25

無人航空機の登録制度の説明のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 原則全ての無人航空機は国の登録を受ける必要がある。
- B) 登録の有効期限は 3 年である。
- C) リモート ID に登録し、機能をオンにすれば登録記号の表示は不要である。

問題 26

無人航空機への登録記号の表示における文字の高さの規定について、以下の空欄(①～②)に入る数字の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

最大離陸重量 25Kg 以上の機体は(①)mm以上

最大離陸重量 25Kg 未満の機体は(②)mm以上

- A) ①25②3
- B) ①20②4
- C) ①15②2

問題 27

無人航空機のリモート ID 機能について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機の登録制度の施行前(2022 年 6 月 19 日)までの事前登録期間中に登録手続きを行った無人航空機はリモート ID 機能の搭載が免除される。
- B) 十分な強度を有する紐(ひも)など(長さが 30m以内のもの)により係留して行う飛行は、機体登録は免除されるが、リモート ID 機能の搭載は免除されない。
- C) 警察庁、都道府県警察又は海上保安庁が警備その他の特に秘匿を必要とする業務のために行う飛行は、リモート ID 機能の搭載が免除される。

問題 28

技能証明の有効範囲について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 二等技能証明を所有していれば、機体は機体認証を受けていなくてもカテゴリー II B 飛行で許可承認申

請は省略できる。

- B) 空港周辺、高度 150m以上、催し場所上空、危険物輸送及び物件投下並びに最大離陸重量 25kg 以上の無人航空機の飛行は、二等技能証明を所有し、第二種機体認証を受けていれば許可承認申請は省略出来る。
- C) 二等技能証明を所有し、第二種機体認証を受けていても、第三者上空の飛行は禁止される。

問題 29

二等無人航空機操縦士保有者が第二種機体認証の機体を飛行させた場合でも、許可もしくは承認が必要な飛行として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 催し場所上空
- B) 危険物輸送
- C) 目視外飛行

問題 30

無人航空機の飛行形態の分類(カテゴリー)について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) カテゴリー I 飛行を行う際は、航空法上の許可・承認を受ける必要はない。
- B) カテゴリー II 飛行ならば、二等技能証明を受け、第二種機体認証機体を飛行させる場合は、どのような飛行でも許可承認は必要なく飛行させることが可能である。
- C) カテゴリー I 飛行でも、飛行前に飛行計画を通報することが推奨される。

問題 31

カテゴリー II B 飛行について誤っているものを一つ選びなさい。

- A) カテゴリー II B 飛行に関しては、技能証明を受けた者が機体認証を受けた無人航空機を飛行させる場合、飛行の許可・承認は不要である。
- B) カテゴリー II B 飛行にあたる最大離陸重量 25kg 以上の無人航空機の飛行は、リスクの高いものとして、立入管理措置を講ずる必要がある。
- C) カテゴリー II 飛行のうち、特に、空港周辺、高度 150m以上、催し場所上空、危険物輸送及び物件投下並びに最大離陸重量 25kg 以上の無人航空機の飛行は、リスクの高いものとして、「カテゴリー II A 飛行」といい、その他のカテゴリー II 飛行を「カテゴリー II B 飛行」という。

問題 32

無人航空機の飛行形態の分類(カテゴリー)について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) カテゴリー II 飛行のうち、人口集中地区の上空を飛行させる場合は、二等技能証明を受け、第二種機体認証機体を飛行させる場合でも許可承認申請が必要である。
- B) カテゴリー II 飛行の中で、リスクの高い飛行をカテゴリー II A 飛行、その他のカテゴリー II 飛行をカテゴリー II B 飛行という。
- C) 空港周辺、高度 150m以上、催し場所上空、危険物輸送及び物件投下並びに最大離陸重量 25kg 以上の飛行はカテゴリー II A 飛行である。

問題 33

無人航空機の飛行形態の分類(カテゴリー)について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 最もリスクの高い飛行はカテゴリーⅠ飛行である。
- B) カテゴリーⅡ飛行は、カテゴリーⅡB飛行と、それよりもリスクの高いカテゴリーⅡA飛行に分けられる。
- C) カテゴリーⅢ飛行の許可承認申請時には、必ず保険に加入していることが求められている。

問題 34

無人航空機の飛行形態の分類(カテゴリー)の説明について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 特定飛行のうち、無人航空機の飛行経路下において、無人航空機を飛行させる者及びこれを補助する者以外の者の立ち入りを管理する措置を講じたうえで行うものを「カテゴリーⅡ飛行」という。
- B) 立入管理措置を講じないで行う特定飛行を「カテゴリーⅢ飛行」といい、最もリスクの高い飛行となることから、その安全を確保するために最も厳格な手続き等が必要になる。したがって、二等無人航空機操縦士以上の技能証明を受けたものが第二種機体認証以上を受けた無人航空機を飛行させることが求められる。
- C) 特定飛行に該当しない飛行を「カテゴリーⅠ飛行」という。この場合には、航空法上は特段の手続きは不要で飛行可能である。

問題 35

無人航空機の飛行形態の分類(カテゴリー)について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 二等技能証明所有者が第二種機体認証を受けた機体でカテゴリーⅡA飛行をする場合、許可承認申請は省略することができる。
- B) カテゴリーⅢ飛行では、一等無人航空機操縦士が第一種機体認証を受けた無人航空機を使用し、国土交通大臣から許可・承認を受けた飛行計画に従った飛行で第三者上空の飛行が行える。
- C) カテゴリーⅢで飛行させる者は、第三者上空飛行に当たり想定されるリスクの分析と評価を実施し、非常時の対処方針や緊急着陸場所の設定などの必要なリスク軽減策を講じることが求められる。

問題 36

カテゴリーⅡ飛行については、当該申請に係る飛行開始予定日の何日前までに申請書を所定の提出先に提出しなければならないか。

- A) 20 開庁日前
- B) 10 開庁日前
- C) 7 開庁日前

問題 37

二等操縦者技能証明以上を有する者が、第二種機体認証以上の機体で飛行させるカテゴリーⅡA飛行として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 夜間飛行
- B) 催し場所上空での飛行
- C) 高度 150m以上の空域での飛行

問題 38

機体認証の説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 機体認証の有効期間は、第一種機体認証、第二種機体認証共に 3 年間である。
- B) 機体認証のための検査は、国又は国が登録した民間の検査機関が実施する。
- C) 機体認証については、無人航空機の飛行形態のリスクに応じ、カテゴリーⅢ飛行に対応した第一種機体認証、カテゴリーⅡ飛行に対応した第二種機体認証に区分されている。

問題 39

技能証明の有効期間について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 技能証明の有効期間は、一等、二等ともに 2 年である。
- B) 技能証明の有効期間は、一等、二等ともに 3 年である。
- C) 技能証明の有効期間は、一等は 1 年、二等は 3 年である。

問題 40

無人航空機の安全ルールについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 航空機と無人航空機間で飛行の進路が交差し、又は接近する場合において、航空機は、無人航空機に対して進路権を有するとされている。
- B) 無人航空機の操縦者は、無人航空機だけでなく、航空機の運航ルールも十分に理解することが極めて重要である。
- C) 無人航空機を飛行させる場合且つ飛行計画の通報を行っている場合には、航空機より無人航空機の進路が優先される。

問題 41

特定飛行として安全に影響を及ぼす恐れのある空域について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 各都道府県知事が設定した人口集中地区の上空。
- B) 空港等周辺上空の空域。
- C) 消防、救助、警察業務その他の緊急用務を行うための航空機の飛行の安全を確保する必要があると指定された緊急用務空域。

問題 42

特定飛行として規制対象となる飛行の方法について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 特定飛行の人・物件 30m 未満での飛行の「人」とは第三者のことを指すが、「物件」は飛行関係者の物件も含まれる。
- B) 特定飛行の危険物の輸送とは、食品を輸送し目的地でそれを投下することまで含まれる。
- C) 夜間飛行とは、日没後から日出までの飛行をいう。

問題 43

特定飛行として規制対象となる飛行の方法について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機を使って食料品を運搬し、目的地に置く飛行。

- B) 空港等の周辺の空域での飛行。
- C) 祭礼、縁日、展示会など多数の者の集合する催しが行われている場所の上空での飛行。

問題 44

特定飛行として規制対象となる飛行の方法について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 目視内飛行
- B) 危険物輸送
- C) 物件投下

問題 45

特定飛行の内容として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 空港等の周辺の上空の空域での高度 100mの飛行は規制されていない。
- B) 高度 150m以下の上空の飛行は規制されている。
- C) 高度 150m以上の飛行禁止空域とは、無人航空機が飛行している直下の地表又は水面からの高度差が 150m以上の空域を指し、海拔高度ではない。

問題 46

特定飛行の内容として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 夜間飛行では機体の姿勢や進行方向が視認できないため灯火を搭載した機体が必要である。
- B) 夜間飛行では、離着陸地点、飛行経路中の回避すべき障害物も視認できるように地上照明を当てる必要があるが、緊急着陸地点は万一の対策なので照明までは必要ない。
- C) 目視外飛行において、補助者を配置しない場合に追加する必要がある装備として、灯火、塗色がある。

問題 47

特定飛行の内容として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 目視外飛行において補助者が配置され周囲の安全が確認できる場合に必要な装備として、自動操縦システム及び機体の外の様子が監視できる機体が必要である。
- B) 夜間飛行において、離着陸地点、緊急着陸地点、飛行経路中の回避すべき障害物も視認できるように地上照明を当てている場合も灯火装備は必須である。
- C) 目視外飛行において、機体に設置されたカメラや機体の位置、速度、異常等の状態を把握することができる送信機(モニター)が必要である。

問題 48

人口集中地区の説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 人口集中地区は、5 年ごとに各都道府県知事が決定し、制定するものである。
- B) 人口集中地区の上空の飛行許可があれば、緊急用務空域を飛行させることは可能である。
- C) 令和 6 年度時点において、令和 2 年度の国勢調査の結果に基づく人口集中地区が適用されている。

問題 49

目視外飛行の説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 補助者が操縦者の隣で操縦者に機体の正しい位置や向きを伝えることが出来る場合は、目視外飛行にあたらぬ。
- B) 目視外飛行とは、ゴーグルを装着した場合であって、モニターを注視することはあたらぬ。
- C) 操縦者が双眼鏡を通して目視して飛行させる場合であっても目視外飛行にあたる。

問題 50

目視外飛行の説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) コンタクトレンズ、メガネをかけて操縦することは、目視外飛行にあたらぬ。
- B) 目視外飛行とは、当該無人航空機及びその周囲の状況を目視により常時監視して飛行させることである。
- C) 補助者が機体を常時監視していても、操縦者が双眼鏡を通して目視していれば、目視外飛行にあたる。

問題 51

目視外飛行において「補助者を配置しない場合に追加する必要のある装備」として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 飛行経路中の回避すべき障害物も視認できるように地上照明を当てる。
- B) 航空機からの視認性を高める灯火、塗色。
- C) プロペラガード等の安全装備。

問題 52

目視外飛行の運航について、補助者を配置しない場合に追加される無人航空機に求められる要件として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 第三者に危害を加えないことを、製造事業者等が証明した機能。
- B) ローターの回転面を傾けたり、ローターピッチ角を変えたりするために必要な機構(スワッシュプレート等)。
- C) ペイロード。

問題 53

夜間飛行に関して正しいものを一つ選びなさい。

- A) 機体の前後が判別できるように、前後でアームの長さやブレードの大きさを変える。
- B) 離着陸地点や緊急着陸地点に照明を当てたり、視認性を高める工夫を実施する。
- C) 機体に搭載されている衝突回避センサであるビジョンセンサは、性能の進化から夜間でも精度が高く、目視する必要はない。

問題 54

「第三者又は第三者の物件との間の距離が 30 メートル未満」飛行の説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 航空法に基づく規制の対象となる第三者又は第三者の物件との間の距離が 30m 未満での飛行において、土地や雑草は物件に該当しないが樹木等の自然物は物件に該当する。
- B) 航空法に基づく規制の対象となる第三者又は第三者の物件との間の距離が 30m 未満での飛行において、電柱や電線は第三者の物件にはあたらぬ。
- C) 十分な強度を有する紐(ひも)等(30m 以下)で係留し、飛行可能な範囲内への第三者の立入管理等の措

置を講じて無人航空機を飛行させる場合は、第三者又は第三者の物件との間の距離が 30m未満での飛行の承認申請は不要である。

問題 55

航空法のルールについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 災害時の対応であっても、国や地方公共団体にかかわらない独自の活動にあつては、特例の対象とはならず、国の飛行の許可・承認などの手続き等が必要となる。
- B) 高度 150m以上の空域であっても、当該構造物から 30m以内の空域については、無人航空機の飛行禁止空域から除外されているが、当該建物が第三者の物件である場合には、第三者又は第三者の物件から 30m未満の承認を受けなければならない。
- C) 十分な強度を有する紐(ひも)等(30m以下)で係留し、飛行可能な範囲内への第三者の立入管理等の措置を講じて無人航空機を飛行させる場合、危険物輸送に係る承認は不要である。

問題 56

「催し場所上空」飛行の説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機の操縦者は、多数の者の集合する催しが行われている場所の上空における飛行が原則禁止されているが、飛行許可を得た場合でも、風速 5m/s 以上の場合は飛行を中止する。
- B) 多数の者の集合する催しが行われている場所の上空における飛行に際しては、機体が第三者及び物件に接触した場合の危害を軽減する構造を要していることが必要である。
- C) 多数の者の集合する催しとは、祭礼、縁日等だけでなく、たとえば信号待ちにより生じた人混みのような自然発生的なものでも該当する。

問題 57

航空法のルールについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 人口集中地区で模型航空機を飛行させた。人口集中地区の上空の飛行許可申請は出していない。
- B) 十分な強度を有する紐(ひも)等(30m以下)で係留し、飛行可能な範囲内への第三者の立入管理等の措置を講じて無人航空機を飛行させる場合、物件投下に係る手続き等は不要である。
- C) 人口集中地区にある自己所有している自宅の屋外の庭で許可を取らずに飛行させた。

問題 58

立入管理区画の説明について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 立入管理区画の設定範囲は、飛行経路直下に設定する区画のことである。
- B) 目視外・補助者を設定しない飛行で立入管理区画を設定した場合は、当該立入管理区画に立看板等を設置するとともに、インターネットやポスター等により、問い合わせ先を明示した上で上空を無人航空機が飛行することを第三者に対して周知する。
- C) 立入管理区画は、広すぎると管理範囲が広がり複雑になるので、範囲は狭ければ狭い方がいい。

問題 59

立入管理措置を行う補助者に関する記述について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 立入管理措置を行う補助者の役割として、飛行範囲に第三者が立ち入らないよう注意喚起を行うことや、飛行経路全体を見渡せる位置において、無人航空機の飛行状況及び周囲の気象状況の変化等を常に監視し、操縦者が安全に飛行させることができるよう必要な助言を行うことが求められる。
- B) 立入管理措置を行う補助者は、操縦者に話しかけると飛行の安全の妨げになるので、一切の助言を控えるべきである。
- C) 立入管理措置の内容は、第三者の立入りを制限する区画(立入管理区画)を設定し、当該区画の範囲を明示するために必要な標識の設置等としており、例えば、関係者以外の立入りを制限する旨の看板、コーン等による表示、補助者による監視及び口頭警告などが該当する。

問題 60

無人航空機の操縦者等の義務について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) アルコールをわずかに飲んだが、酔っておらず体調に問題がないので飛行させた。
- B) 風邪薬を服用して眠気があるが、飛行させた。
- C) アルコールが含まれたお菓子を食べてからの飛行は禁止である。

問題 61

次の遵守事項のうち正しいものを一つ選びなさい。

- A) アルコールは罰せられるが、持病の治療に使用する薬に関しては眠気が出てもやむを得ないことから、飲用しても問題ない。
- B) 飛行前の確認は、前回飛行して問題なければ確認をしなくてもよい。
- C) 有人の航空機に限らず無人航空機との衝突も予防する飛行をしなければならない。

問題 62

無人航空機の操縦者等の義務のうち、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 特定飛行の場合は、飛行情報を「ドローン情報基盤システム DIPS2.0」の飛行計画通報により通報する必要がある。
- B) 特定飛行でない場合も通報することが推奨されている。離陸前に航空機を確認した際は、無人航空機を素早く先に離陸させ安全を確保する。
- C) ドローン飛行中に航行中の航空機を確認した場合は、地上に降下させる等の適切な措置をとる。

問題 63

無人航空機操縦者の義務として誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 第三者の物件を損壊した事故の場合、損害賠償を求められた時にのみ国土交通大臣に報告する義務がある。
- B) 特定飛行に該当しない飛行を行う場合でも、DIPS2.0 から飛行計画を通報することが推奨されている。
- C) 特定飛行を行う操縦者は、飛行日誌の記載と飛行日誌の携行(携帯)の義務がある。

問題 64

航空機が飛行する方式について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 航空機が飛行する方式には、「計器飛行方式」と「有視界飛行方式」の2つがある。
- B) 計器飛行方式とは、緊急時のみ航空交通管制機関が与える指示に従う飛行の方式である。
- C) 計器飛行方式とは、航空機の操縦者の判断に基づき飛行する方式である。

問題 65

航空機が飛行する方式について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 空港及びその周辺においては、計器飛行方式は航空交通管制機関の指示に従う必要があるが、有視界飛行方式で飛行している小型機や回転翼航空機の場合は、航空交通管制機関の指示に従う必要はない。
- B) 通常、旅客機は計器飛行方式で飛行するが、小型機や回転翼航空機の場合は有視界飛行方式で飛行することが多い。
- C) 有視界飛行方式で飛行を行なっている場合であっても、視界で確認できない気象状態となった場合には計器飛行方式で飛行する必要がある。

問題 66

航空機の運航ルール等について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行中、無人航空機の航路に航空機を確認した場合には、無人航空機を地上に降下させるなどの適切な措置をとらなければならない。
- B) 無人航空機は、高度 150m以上の上空の飛行を禁止されているが、高度 150m未満の飛行では、航空機より無人航空機側が優先される。
- C) 航空機の飛行速度や無人航空機の高さを考慮すると、航空機側から無人航空機の機体を視認し回避することは困難である。

問題 67

航空機の運航ルール等について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 航空機の機長は、出発前に国土交通大臣から提供される航空情報を確認することが義務付けられている。
- B) 無人航空機の操縦者は、許可承認を受けている場合に限り、飛行前に国土交通省からの情報を確認することは省略出来る。
- C) 無人航空機を高度 150m以上の上空を飛行させる場合は、許可承認を受けていれば航空交通管制機関との調整は省略できる。

問題 68

航空機の管制区域について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 航空交通管制業務を実施する区域(管制区域)と、管制区域以外の非管制区域とに分けられる。
- B) 航空機の管制区については、無人航空機の操縦者には関係の無いことなので、飛行前の準備として確認する必要はない。
- C) 空港等及びその周辺の空域では、計器飛行方式で飛行している航空機のみが航空交通管制機関の指示に従えばよい。

問題 69

航空機の管制区域について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 航空交通管制区では、計器飛行方式により飛行する航空機は航空交通管制機関と常時連絡を取り、飛行の方法等についての指示に従って飛行を行わなければならない。
- B) 航空交通管制圏は、航空機の離着陸が頻繁に実施される空港及びその周辺の空域である。
- C) 航空交通管制圏は、空港の上空のみであり、全ての飛行機が航空管制機関と連絡を取り、飛行の方法や離着陸の順序等の指示に従って飛行を行わなければならない。

問題 70

空港の制限表面の説明について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 「安全表面」とは、進入をやり直す場合等の側面方向への飛行の安全を確保するために必要な表面である。
- B) 「進入表面」とは、進入の最終段階及び離陸時における航空機の安全を確保するために必要な表面である。
- C) 「転移表面」とは、空港周辺での旋回飛行等低空飛行の安全を確保するために必要な表面である。

問題 71

空港の制限表面の説明について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 大型化及び高速化により旋回半径が増大した航空機の空港周辺での旋回飛行等の安全を確保するために必要な表面のことを「円錐表面」という。
- B) 精密進入方式による航空機の最終直線進入の安全を確保するために必要な表面のことを「延長進入表面」という。
- C) 航空機が最終直線進入を行うまでの経路の安全を確保するために必要な表面のことを「最終直線進入表面」という。

問題 72

空港の制限表面について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 進入表面、転移表面若しくは水平表面又は延長進入表面、円錐表面若しくは外側水平表面の上空の空域は、無人航空機の飛行が禁止されている。
- B) (進入表面等がない)飛行場周辺の、航空機の離陸及び着陸の安全を確保するために必要なものとして国土交通大臣が告示で定める空域も無人航空機の飛行は禁止されている。
- C) 進入表面若しくは転移表面の下空域、又は空港の敷地の上空の飛行を禁止されている空港はない。

問題 73

緊急用務空域について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 飛行途中に飛行範囲が国土交通省により「緊急用務空域」に指定されたことを確認できたが、飛行前に指定されていないので飛行を継続させた。
- B) 緊急用務空域が指定されているが、重量 100g未満の模型航空機の飛行なので、緊急用務の航空機を妨害しないように注意して飛行させた。
- C) 人口集中地区の上空の飛行許可を取っていても、緊急用務空域では飛行が禁止されている。

問題 74

無人航空機のルールについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 緊急用務空域において丁度災害現場に遭遇し、救助の必要性があると判断し国や地方公共団体からの依頼は受けていないが自発的に無人航空機を飛行させた。二等技能証明を所有し、第二種機体認証を受けている機体で飛行させた。
- B) 国や地方公共団体又はこれらから依頼を受けた者が、事故、災害等に際し、捜索、救助等の緊急性のある目的のために無人航空機を飛行させる場合には、特例として飛行の空域及び方法の規制が適用されない。
- C) 煙突や鉄塔などの高層の構造物の周辺は、航空機の飛行が想定されないことから、高度 150 メートル以上の空域であっても、当該構造物から 30m以内の空域については、無人航空機の飛行禁止空域から除外されている。

問題 75

無人航空機のルールについて、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 地方公共団体が定める条例に基づき飛行が禁止されている公園等は、特定飛行の催し場所上空の飛行が認められている場合のみ飛行可能である。
- B) 国土交通省は、航空法に基づく規制を行い、警備上の観点等から警察などの関係省庁等の要請に基づき無人航空機の飛行自粛を要請することはない。
- C) 地方公共団体が定める条例に基づき飛行が禁止されている公園等は、いかなる特定飛行の許可承認を受けていても飛行させることは禁止されている。

問題 76

模型航空機に関する説明について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 模型航空機は、重量 200g未満の機体である。
- B) 緊急用務空域の航空機の飛行は航空法により禁止されているが、模型航空機は禁止されていない。
- C) ただし、一般社会モラルを守るべきである。空港等の周辺、航空路内の空域(高度 150m以上)、高度 250 m以上の空域において、模型航空機を飛行させる場合には、国土交通省への事前の届出が必要である。

問題 77

模型航空機関連の内容に関して、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 航空法の緊急用務空域における模型航空機の飛行は問題ないが、その他全ての無人航空機の飛行は禁止されている
- B) 航空交通管制圏における模型航空機の飛行は問題ないが、その他全ての無人航空機の飛行は禁止されている
- C) 小型無人機等飛行禁止法においては、模型航空機を含む全ての無人航空機の飛行は禁止されている。

問題 78

「登録を受けていない無人航空機を飛行させたとき」の罰則について、正しいものを選びなさい。

- A) 1 年以下の懲役又は 30 万円以下の罰金
- B) 1 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金
- C) 2 年以下の懲役又は 100 万円以下の罰金

問題 79

「飛行日誌を携行(携帯)せずに特定飛行を行った場合」の罰則として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 10 万円以下の罰金
- B) 20 万円以下の罰金
- C) 30 万円以下の罰金

問題 80

航空法の罰則の内容として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行計画を通報せずに特定飛行を行ったとき、30 万円以下の罰金の可能性がある。
- B) アルコール又は薬物の影響下で無人航空機を飛行させたとき、2 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金の可能性がある。
- C) 事故が発生した場合に飛行を中止し負傷者を救護するなどの危険を防止するための措置を講じなかったとき、2 年以下の懲役又は 100 万円以下の罰金の可能性がある。

問題 81

二等技能証明所有者が第二種機体認証を受けた機体でカテゴリーⅡB 飛行をする場合に作成・遵守すべき飛行マニュアルに記載する事項として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機を飛行させる者の個人情報に関する事項。
- B) 当該無人航空機の飛行前の確認に関する事項。
- C) 事故等が発生した場合における連絡体制の整備等に関する事項。

問題 82

無人航空機操縦者技能証明について、パワードリフト機(Powered-lift)の飛行はどの種類の限定に係る資格が必要か、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 回転翼航空機(ヘリコプター)及び飛行機
- B) 回転翼航空機(マルチローター)及び飛行機
- C) 回転翼航空機(マルチローター)及び回転翼航空機(ヘリコプター)

問題 83

無人航空機操縦者技能証明(技能証明)の資格要件について、技能証明の申請をすることができない項目として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 16 歳に満たない者
- B) 航空法の規定に基づき技能証明を拒否された日から 1 年以内の者又は技能証明を保留されている者(航空法等に違反する行為をした場合や無人航空機の飛行に当たり非行又は重大な過失があった場合に係るものに限る。)
- C) 航空法の規定に基づき技能証明を取り消された日から 1 年以内の者又は技能証明の効力を停止されている者(航空法等に違反する行為をした場合や無人航空機の飛行に当たり非行又は重大な過失があった場合に係るものに限る。)

問題 84

技能証明試験に合格した者であっても技能証明を拒否又は保留することができる条件として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 道交法に違反する行為をした者。
- B) アルコールや大麻、覚せい剤等の中毒者。
- C) てんかんや認知症等の無人航空機の飛行に支障を及ぼす恐れがある病気にかかっている者。

問題 85

技能証明に関する内容について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 指定試験機関で技能証明を受けようとする者は、実地試験に合格しなければ、学科試験を受けることができない。
- B) 技能証明を受けた者で特定飛行を行う場合には、技能証明書を携帯しなければならない。
- C) メガネ、コンタクトレンズ、補聴器等の当該条件が付された技能証明を受けた者は、その条件の範囲内でなければ特定飛行を行ってはならない。

問題 86

技能証明に関する説明について、空欄(①～③)に入る数字の組み合わせとして、正しいものを一つ選びなさい。

技能証明の有効期間は(①)年であり、その更新を申請する者は、「登録更新講習機関」が実施する無人航空機更新講習を有効期間の更新の申請をする日以前(②)月以内に修了したうえで、有効期間が満了する日以前(③)月以内に国土交通大臣に対し技能証明の更新を申請しなければならない。

- A) ①6②3③3
- B) ①3②6③3
- C) ①3②3③6

問題 87

重大インシデントの報告について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 保管中の機体に差していたバッテリーが発火した場合、重大インシデント報告の対象となる。
- B) 飛行中に機体不具合により制御不能となった場合、重大インシデント報告の対象となる。
- C) 第三者が操縦する無人航空機と接触し、一方が破損した場合、重大インシデント報告の対象となる。

問題 88

重大インシデントの報告について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行中の航空機と接触のおそれがあった場合、重大インシデント報告の対象となる。
- B) 無人航空機による人の負傷(重症)があった場合、重大インシデント報告の対象となる。
- C) 飛行中の無人航空機が発火する事態が発生した場合、重大インシデント報告の対象となる。

問題 89

事故報告の説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 人の死傷に関して、重傷以上は事故報告の対象となる。
- B) 物件の損壊に関して、第三者の所有物は事故報告の対象となる。
- C) 物件の損傷が明らかに軽微なものであれば、事故報告の必要はない。

問題 90

小型無人機等飛行禁止法に関する説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 小型無人機等飛行禁止法により、重要施設の敷地・区域の上空のことをレッドゾーンという。
- B) 小型無人機は大きさや重さにかかわらず対象となり、100g未満のものも含まれる。
- C) 小型無人機等飛行禁止法により、重要施設の敷地・区域には国土交通大臣が指定した原子力事業所も含まれる。

問題 91

小型無人機等飛行禁止法に関する説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 小型無人機とは、飛行機、回転翼航空機、滑空機、飛行船その他の航空の用に供することができる機器であって構造上人が乗ることができないもののうち、遠隔操作又は自動操縦により飛行させることができるものである。
- B) 特定航空用機器とは、航空機以外の航空の用に供することができる機器であって、当該機器を用いて人が飛行することができるものと定義されており、気球、ハンググライダー及びパラグライダー等が該当する。
- C) 飛行禁止の対象となる重要施設の内、「空港」については日本全国の全ての空港が対象となる。

問題 92

小型無人機等飛行禁止法に関する説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 一時的に対象施設が追加されることはない。
- B) 重要施設には、都道府県知事が指定した庁舎等が含まれる。
- C) 航空法に基づく飛行の許可・承認や機体認証・技能証明を取得した場合であっても、これらの取得をもって小型無人機等を飛行させることはできない。

問題 93

小型無人機等飛行禁止法に関する説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 重要施設上空及びその周辺においての飛行は、その対象施設の管理者の同意を得た者による飛行は、飛行禁止の例外にあたるが、都道府県公安委員会等へ通報しなければならない。
- B) 重要施設上空及びその周辺における飛行は、いかなる場合でも飛行禁止である。
- C) 対象空港の敷地又は区域のレッドゾーンにおいては、国又は地方公共団体の業務を実施するために行う飛行の場合は、飛行禁止の例外にあたる。

問題 94

小型無人機等飛行禁止法に関する説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 警察官等は、小型無人機等飛行禁止法の規定に違反して小型無人機等の飛行を行う者に対し、機器の退去その他の必要な措置をとることを命じた上で、はじめて小型無人機等の飛行の妨害、破損、その他の必

要な措置をとることができる。

- B) 警察官等の命令に違反してイエローゾーンを飛行させた者は、罰則の対象となる。
- C) 飛行禁止であるイエローゾーンにおいて小型無人機等の飛行を行った者は1年以下の懲役又は50万円以下の罰金に処せられる。

問題 95

小型無人機等飛行禁止法は、国会議事堂などの重要施設及びその周囲おおむね何メートルの周辺地域における小型無人機の飛行を禁止するものであるか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 600m
- B) 500m
- C) 300m

問題 96

小型無人機等飛行禁止法の次のうち誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 小型無人機等飛行禁止法により、レッドゾーン及びイエローゾーンにおいては小型無人機等を飛行させることはできず、都道府県庁舎の上空は対象に含まれない。
- B) 航空法で定義されている無人航空機と異なり、定義されている小型無人機は大きさや重さに関わらず対象となる。
- C) 飛行禁止の対象となる重要施設の内、「外国公館等」・「防衛関係施設」・「主要空港」は、国土交通大臣指定の施設である。

問題 97

無線局の説明について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 技適マークのついている機器はどの周波数帯の電波を利用しても免許不要である。
- B) 空中線電力が2W以下で、特定の用途に使用される一定の技術基準が定められた無線局については、免許又は登録が不要である。
- C) ラジコン等に用いられる微弱無線局は、無線設備から500mの距離での電界強度(電波の強さ)が $200\mu\text{V/m}$ 以下のものとして、周波数などが総務省告示で定められている。

問題 98

アマチュア無線局の説明について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) アマチュア無線を使用した無人航空機を、利益を目的とした仕事などの業務に利用することはできない。
- B) 5.7GHz帯では無人移動体画像伝送システムが用いられており、5.8GHz帯は、DSRCシステムに割り当てられているので、アマチュア無線はこれらの電波に影響を与えることはない。
- C) 5GHz帯のアマチュア無線は、周波数割当計画に、二次業務に割り当てられている。

問題 99

無人航空機の機体の特徴として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行機は回転翼航空機と比べ高速飛行、長時間飛行、長距離飛行が可能であるが、一般に、安全に飛行

できる最低速度が決められており、それ未満での低速飛行ができない。

- B) 回転翼航空機(ヘリコプター)は、垂直離着陸、ホバリング、低速飛行が可能であるが、これには大きなエネルギー消費が伴い、風の影響を受けやすい。
- C) 回転翼航空機(マルチローター)はモーター性能を同一とした場合、ローターの数が多いほど故障に対する耐性が低下し、ペイロード(積載可能重量)が減る。

問題 100

無人航空機の機体の特徴として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行機は、回転翼航空機に比べ、飛行速度が速く、エネルギー効率が高いため、長距離・長時間の飛行が可能という特徴がある。
- B) 飛行機の横方向の移動はバンクターンで行う。
- C) 飛行機は回転翼のようにその場で止まれないが、一般に、安全に飛行できる最低速度が決められているものの、それ未満での低速飛行も問題なく飛行できる。

問題 101

回転翼航空機(マルチローター)において、ローターの反トルクバランスを崩す時に起こる現象(運動)について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 上昇、ホバリング、降下。
- B) 前後、左右移動。
- C) 水平回転。

問題 102

回転翼航空機(マルチローター)を操縦する際に、機体の動きを指示するために用いられる用語の「エルロン」とは次のどの動作か、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 左右移動。
- B) 機首方向の旋回。
- C) 前後移動。

問題 103

回転翼航空機(マルチローター)について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) フライトコントロールシステムは、搭載されている各種センサからの情報や送信機から発信された情報を処理し機体を制御するための信号を送るシステムである。
- B) ホバリングや機体を水平回転させることができる。
- C) 全てのローターの回転方向をクロックワイズ方向かカウンタークロックワイズの方向のどちらか統一させないと反トルクの影響で機体が回転してしまう。

問題 104

回転翼航空機(マルチローター)の機体の前後左右移動時のローターについて、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 進行方向のローターの回転数を一時的に停止させ、反対側のローター回転数は変えない。

- B) 進行方向のローターの回転数を一時的に下げ、反対のローターの回転数を上げる。
- C) 進行方向のローターの回転数を一時的に上げ、反対側のローター回転数を下げる。

問題 105

回転翼航空機(マルチローター)の大型機(最大離陸重量 25kg 以上)について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 離陸時に地面効果の範囲が広がり、効率よく揚力を得られる。
- B) 飛行時機体から発せられる騒音も大きくなり周囲への影響範囲も広がる。
- C) 機体の対角寸法やローターのサイズやモーターパワーも大きくなり、飛行時の慣性力も増加し、上昇・降下や加減速などに要する時間と距離が長くなる。

問題 106

回転翼航空機(マルチローター)の大型機(最大離陸重量 25kg 以上)について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 大型機(最大離陸重量 25kg 以上)は、体サイズが大きく機体重量があるため、地面効果の影響は小さくなる。
- B) 大型機(最大離陸重量 25kg 以上)は、ローターの大きさも必然的に大きくなることより、小型のものと比較し低音で騒音の影響が小さくなる。
- C) 離着陸やホバリング時の地面効果等の範囲が広がり、高度な操縦技術を要する。

問題 107

回転翼航空機(ヘリコプター)について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 上昇下降はエレベーターの舵で行う。
- B) テールローターは、メインローターの反トルクを打ち消す役割や、機体の向き(ヨー方向)を変える操縦に用いる。
- C) マルチローターと違い、地面効果を利用して揚力を得てエネルギー効率を良くすることが大切である。

問題 108

回転翼航空機(ヘリコプター)について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行機やマルチローターに比べて、空力的に効率良く揚力を得ることが出来る。
- B) 垂直離着陸、ホバリング、低速飛行が可能であるが、一方で、これには大きなエネルギー消費がとれない、風の影響を受けやすい。
- C) 大型機(最大離陸重量 25kg 以上)の場合は、機体挙動が遅れ気味になるため、早めに操舵することが必要になる。

問題 109

回転翼航空機(ヘリコプター)の特徴の説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 1 組のローターで揚力を発生させるため、回転翼航空機(マルチコプター)に比べ、ローターの直径が大きく、空力的に効率良く揚力を得ることができる。
- B) ローターの回転面を傾けたり(機体を前後左右に運動させる場合)、ローターピッチ角を変えたり(上昇・降

下させる場合)するために必要な機構(スワッシュプレート等)が搭載されている。

- C) テールローターは、メインローターの反トルクを打ち消したり、上下移動を補助する役割がある。

問題 110

回転翼機(ヘリコプター)の特徴で正しいものを一つ選びなさい。

- A) 上昇・降下はメインローターの回転数のみで制御する。
- B) テールローターのヨー角を変更し、メインローターの反トルクを打ち消す。
- C) 電動モーターやエンジンの動力をローターの回転に使うが、回転数は常に一定である。

問題 111

無人航空機の飛行原理として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行機には飛行速度と逆向きに空気抵抗である抗力が働くが、それに抗するために回転翼であるプロペラ等による推力が必要である。
- B) 機体の前後・上下を含む面に空気流入の向きを投影したときに、前後軸とのなす角を横滑り角という。
- C) 機体の機首を上げ下げする回転がピッチ、機体を左右に傾ける回転がロール、機体を上から見たときの機首の左右の回転がヨーである。

問題 112

飛行機が失速する可能性があるものとして、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 過度に上昇角度を大きくした。
- B) 過度に速度を下げて移動した。
- C) 過度に旋回半径を大きくした。

問題 113

飛行機の大型機(最大離陸重量 25kg 以上)について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 大型機は慣性力が大きいことから、速度を上げるのに時間がかかる。
- B) 慣性力が大きいので障害物の回避はしやすくなる。
- C) 一般に小型の機体よりも騒音が大きくなるため、飛行ルート周囲への配慮が必要である。

問題 114

飛行機について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 飛行機の上下ピッチ方向の舵は、「エルロン」である。
- B) 機体の大きさによって離着陸距離が変わることはない。
- C) 滑空するため墜落、不時着する場合の落下地点を狭い範囲に抑えることができない。

問題 115

飛行機について、誤っているものを一つ答えよ。

- A) 飛行機の離着陸は風向が重要であり、離着陸の方向は向かい風を選ぶのが原則である。
- B) 姿勢安定装置を使用しない場合はバンクターンの操作はラダーとエレベーターの複合である。

- C) 飛行機はプロペラによる推力によって速さを制御し、また、ピッチ、ロール、ヨーの姿勢を変化させることで飛行方向の向きを制御する。

問題 116

無人航空機の飛行の原理について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行中の航空機に流入する空気の機体に対する角度を迎角と滑空角で表す。
- B) 機体の前後・上下を含む面に空気流入の向きを投影したときに、前後軸とのなす角を迎角という。
- C) 機体に働く力が釣り合ったとき、機体は速度と姿勢を一定とする定常飛行(釣り合い飛行)を行う。

問題 117

無人航空機の飛行の原理について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 機体に働く力が崩れたとき、機体は速度と姿勢を一定とする定常飛行(釣り合い飛行)を行う。
- B) 機体の前後・上下を機体の前後・上下を含む面と空気流入の向きの面のなす角を横滑り角という。
- C) 機体の前後・上下を含む面に空気流入の向きを投影したときに、前後軸とのなす角を迎角という。

問題 118

無人航空機の飛行の原理について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 回転翼航空機(ヘリコプター)はメインローターの反トルクをテールローターで相殺する。
- B) 無人航空機のペイロードの最大積載量とペイロード搭載時の飛行性能は、飛行高度・大気状態によらず一定である。
- C) 機体の重心位置の変化は飛行特性に大きな影響を及ぼすため、ペイロードの有無によって機体の重心位置が著しく変化しないようにしなければならない。

問題 119

無人航空機のセンサの説明について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) ジャイロセンサは、単位時間当たりの回転角度の変化を検出する装置であり、これにより、風などで機体が傾いたときに、無人航空機の傾きや向きの変化を検出し、フライトコントロールシステムに情報を伝える。
- B) IMU は、3 次元の慣性運動(直行 3 軸方向の並進運動)を検出する装置であり、無人航空機の速度の変化量を検出するセンサである。ジャイロセンサと合わせて機体の姿勢を制御する。
- C) 気圧センサは、気圧の変化を歪みゲージを利用して読み取り、高度を計測する。

問題 120

フライトコントローラー(FC)に搭載されている各種センサで正しいものを一つ選びなさい。

- A) GNSS とは、人工衛星の電波を受信し機体の位置情報である緯度や経度及び高度を取得するデバイスである。
- B) ジャイロセンサとは、加速度を想定するデバイスである。
- C) 加速度センサとは、回転角速度を測定するデバイスである。

問題 121

ジャイロセンサの説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 操作の指令を機体へ送信する、又は機体情報を受信する装置。
- B) 単位時間当たりの回転角度の変化を検出する装置。
- C) 地球の磁力を検出して方位を測定する装置。

問題 122

無人航空機で使われる電池の電圧について、放電(飛行)中の電圧降下は何によって決まるのか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 電気回路の配線抵抗のみ。
- B) バッテリーの内部抵抗のみ。
- C) 電気回路の配線抵抗とバッテリーの内部抵抗。

問題 123

無人航空機で使われる電池やモーターに関する説明について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 電池の容量とは、満充電から、電圧が決められた最低電圧(終止電圧)になるまでの間に、利用できる電気量。
- B) 電池の出力とは、単位時間当たりのエネルギー量を表す。
- C) ブラシレスモーターの特徴として、メンテナンスが容易、静音であるが、寿命は短い。

問題 124

回転翼航空機(マルチコプター)の上昇操作方法で、正しいものを一つ選びなさい。

- A) スロットルスティックを前側に倒す。
- B) エレベータースティックを前側に倒す。
- C) エルロンスティックと同時にエレベータースティックを手前に引く。

問題 125

送信機のスティック操作のモードについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 回転翼航空機(マルチローター)のエレベーター舵は、モード1とモード2でも同じである。
- B) 回転翼航空機(マルチローター)のエルロン舵は、モード1とモード2でも同じである。
- C) 回転翼航空機(マルチローター)のラダー舵は、モード1とモード2でも同じである。

問題 126

回転翼機(マルチローター)の特徴で、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 風の影響を受けやすい。
- B) ローターの回転数を個別に制御することで、機体の姿勢や位置を安定させたり移動させたりしている。
- C) 飛行機に比べ、飛行速度が速く、エネルギー効率が高いため、長距離・長時間の飛行が可能である。

問題 127

リチウムポリマーバッテリーの特徴について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) エネルギー密度が高い。
- B) 自己放電が多い。
- C) 電圧が高い。

問題 128

リチウムポリマーバッテリーに関わる電氣的なトラブルについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機を急上昇させた場合、直後にバッテリー残量が減った様に見えることがある。これはバッテリーから大きな電流が流れたことで一時的な電圧低下が生じることが原因である。
- B) 冬季の飛行では飛行時間が延びることがある。気温が低下するとバッテリーが高温にならないため、放電能力が向上するためである。
- C) リチウムポリマーバッテリーは高密度なエネルギーを大容量で出力できるが、バッテリー残量が減り、電圧低下してくると急激に出力が弱くなり、墜落の原因となる。

問題 129

リチウムポリマーバッテリーについて、正しいものを一つ選びなさい。

- A) エネルギーの密度が高く電圧も高いが、自己放電とメモリー効果も高い。
- B) 電解質が不燃性で安全性が高い。
- C) バッテリーに強い衝撃を与えると発火する可能性があるので注意しなければならない。

問題 130

無人航空機に使われるエンジンについて、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) エンジン機は、メーカーが指定する燃料を適切に扱う必要がある。
- B) エンジンの種類により、潤滑方式、燃焼サイクル、点火温度等が異なる。
- C) 燃料としてガソリンを使用し、オイル等を混ぜた混合燃料が使用されることはない。

問題 131

飛行機の離着陸時における風について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 飛行機の離陸時は「向かい風」を選び、着陸時は「追い風」を選ぶ。
- B) 飛行機の離陸時は「追い風」を選び、着陸時は「向かい風」を選ぶ。
- C) 飛行機の離陸時も着陸時も「向かい風」を選ぶ。

問題 132

緊急時の対応について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 緊急時には、出来る限り離陸時点に戻すように心がけ、難しい場合のみ準備した緊急着陸地点で着陸させる。
- B) 緊急時には、離陸地点などに戻すことを前提とせず、速やかに近く of 安全な無人地帯へ不時着させる。
- C) 緊急時の着陸は、センサー類に頼らない手動操作による飛行は決して行ってはならない。

問題 133

緊急時の対応について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 飛行前には、万一を想定して緊急着陸地点を準備しておくことが大切である。
- B) 緊急時の対策として、緊急時には任意の地点に着陸すればいいので、緊急着陸地点を用意する必要はない。
- C) 緊急着陸地点の一つを、航路下のうち、人の進入がないであろう地点にも設定した。

問題 134

緊急時の対応について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) GNSS 受信装置による機体位置推定機能を使用しない機体操作は難しく、緊急時に行うと大変危険なので禁止されている操作である。
- B) フェールセーフ機能発動中にバッテリー残量不足等の飛行が継続できない場合、又は予想される場合、機体は着陸動作に遷移し着陸を試みる。
- C) 緊急事態の発生状況は様々で要因を特定することが困難であるため、あらかじめ緊急時の対応手順を決めておくことは推奨されない。

問題 135

電波の性質の種類と特徴について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 電波は、周波数が低い(波長が長い)ほど、より直進性が高くなる。
- B) 電波の減衰とは、進行距離の 2 乗に反比例する形で電力密度が減少することである。(進行距離が 2 倍になると電波の電力密度は $1/4$ になる)。
- C) 電波は、2 つの異なる媒質間を進行するとき、反射や屈折が起こる。常に反射の法則(入射角と反射角の大きさは等しい)が成り立つ。

問題 136

電波の特徴として、正しいものを選びなさい。

- A) 電波は、障害物がない限り広範囲に拡散する。
- B) 送信機の電波が弱まった場合は、送信機のアンテナの向きを変えれば電波が強まる。
- C) 電波は、二つ以上の波が重なると強め合ったり弱め合ったりする。

問題 137

電波の特徴について、誤っているものを一つ答えよ。

- A) 電波は、進行距離の 2 乗に反比例する形で電力密度が減少する(進行距離が 2 倍になると電波の電力密度は $1/4$ になる)。
- B) 電波は、周波数が低い(波長が長い)ほど、より障害物を回り込むことができるようになる。
- C) 電波は、周波数の特性は異なるものの、水中では水の反射により増殖される。

問題 138

電波に関する以下の説明文に該当する電波の性質の種類について、正しいものを一つ選びなさい。

「電波は、2 つ以上の波が重なると、強め合ったり、弱め合ったりする。」

- A) 干渉
- B) 減衰
- C) 回折

問題 139

マルチパスの説明について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 送信アンテナから放射された電波が山や建物などによる反射、屈折等により複数の経路を通して伝搬される現象をマルチパスという。
- B) マルチパスの現象が発生した場合、一時的に操縦不能になる要因一つとなっている。
- C) マルチパスによって電波が弱くなり一時的に操縦不能になった場合は、送信機の再起動にて操縦の復帰を試みる。

問題 140

フレネルゾーンの説明について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) フレネルゾーンとは、無線通信などで、電力損失をすることなく電波が到達するために必要とする領域のことをいう。
- B) フレネルゾーンは、送信と受信のアンテナ間の最短距離を中心とした楕円体の空間で、この空間は無限に広がるが、電波伝搬で重要なのは第1フレネルゾーンと呼ばれる部分である。
- C) フレネルゾーンの半径は、周波数が低く(波長が長く)又は、送信と受信の距離が長くなればなるほど小さくなる。

問題 141

主に 2.4GHz 帯及び 5.7GHz 帯の無人移動体画像転送システムの無線局のバックアップ回線として使用される周波数帯について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 920MHz 帯
- B) 73MHz 帯
- C) 169MHz 帯

問題 142

磁気方位に関する説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 地磁気センサは正常な方位を計測しない場合があるが、それは磁力線が示す北(磁北)と地図の北に偏角が生じるためである。
- B) 地磁気の検出には、鉄や電流が影響を与える可能性がある。
- C) 無人航空機の磁気キャリブレーションとは、飛行前にその場所の地磁気を検出して方位を取得し、GNSS機能やメインコントローラーに認識させることであるため、1日の飛行であれば違う場所での再磁気キャリブレーションの必要はない。

問題 143

GNSSの説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) GNSS は世界各国が設置した地上の位置を測位するシステムである。
- B) GNSS は、最低 3 個以上の人工衛星からの信号を同時に受信することでその位置を計算することができる。
- C) 日本国内では米国の GPS と日本の「みちびき」しか利用できない。

問題 144

飛行後にすぐに点検しなければならない内容として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 機体(プロペラ、フレーム等)に損傷やゆがみはないか点検を行う。
- B) 機体やバッテリー等を安全な状態で適切な場所に保管しているか点検を行う。
- C) 各機器の異常な発熱はないか点検を行う。

問題 145

飛行日誌の運用として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 特定飛行をする場合には、飛行日誌を携行(携帯)することが義務付けられている。
- B) 特定飛行を行った場合には、飛行記録、日常点検記録、点検整備記録を遅滞なく飛行日誌に記載する。
- C) 特定飛行に該当しない飛行の場合は、飛行日誌に記載する必要はない。

問題 146

ガソリンエンジンで駆動する機体の注意事項として、ガソリンは危険物に該当するため、乗用車等で運搬する場合には、消防法で定められた何リットル以下の専用の容器で運搬することが必要であるか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 12 リットル
- B) 22 リットル
- C) 32 リットル

問題 147

ペイロードを搭載あるいは物件投下時における注意事項として、投下場所に補助者を配置しない場合、物件投下を行う際の高度は何m以内である必要があるか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 1m以内
- B) 2m以内
- C) 3m以内

問題 148

国土交通省へのカテゴリⅡ飛行の特定飛行申請について、当該申請に係る飛行開始予定日の何日前までに、所定の提出先に提出する必要があるか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 5 開庁日前
- B) 10 開庁日前
- C) 15 開庁日前

問題 149

損害賠償能力の確保について、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機の保険については大きく分けて機体保険と損害賠償責任保険がある。
- B) 国土交通省においては、加入している保険の確認など無人航空機を飛行させる者が賠償能力を有することの確認を、許可・承認の審査の際に行っている。
- C) 無人航空機を飛行させる場合には、万一の場合に備え賠償能力を確保するため損害保険に加入しておくことが義務付けられている。

問題 150

回転翼航空機(マルチローター)において離陸時に回転翼から発せられる吹きおろしの気流が地面付近で滞留し、揚力が増す現象として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 地面効果
- B) ダウンバースト
- C) ボルテックス・リング・ステート

問題 151

回転翼航空機(ヘリコプター)の離着陸時に特に注意すべき事項として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) ローター回転が低い状態で無理に離陸させると、機体の反応が遅れることがあり、危険である。
- B) ローター半径以下の高度では、地面効果の影響が顕著となり、機体が不安定になる。
- C) 離陸後は速やかに地面効果外まで機体を上昇させる。地面効果範囲内のホバリングは避け、ゆっくり着陸させる。

問題 152

飛行機の離着陸時に特に注意すべき事項として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 追い風方向に滑走できるエリアを確保できたら離陸操縦に入る。
- B) 風速を考慮し適切なパワーをかけてエレベーターによる上昇角度をとり離陸する。
- C) 地面に近づくにつれ、降下速度を遅くし、滑空着陸による衝撃を抑える。

問題 153

回転翼機(マルチローター)の離着陸時に注意することで誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 緊急時には GNSS 受信装置や安全装置などを使用しない機体操作が求められる場合がある。
- B) 機体を降下させる際に、出来るだけ垂直方向の動作に集中することにより「ボルテックスリングエスレート現象」の発生を活用し、機体をコントロールする。
- C) 離陸直後から「ダウンウォッシュ」が地面付近で滞留することで揚力が増す地面効果現象が発生するので注意する。

問題 154

CRM(CrewResourceManagement)を実現するために取り入れられている手法の名称として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) TEM
- B) フェールセーフ
- C) ICAO

問題 155

事故等の防止のためには、操縦技量(テクニカルスキル)の向上は有効な対策だが、これだけでは人間の特性や能力の限界(ヒューマンファクター)の観点からヒューマンエラーを完全になくすことはできない。

これに対処するための、全ての利用可能な人的リソース、ハードウェア及び情報を活用したマネジメント手法の名称はどれか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) CRM(CrewResourceManagement)
- B) HRM(HumanResourceManagement)
- C) TRM(TechnicalResourceManagement)

問題 156

飛行を行う際は、原則として飛行空域に安全マージンを加えた範囲で実施するが、危険半径として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 高度と同じ数値又は 10mのいずれか長い方。
- B) 高度と同じ数値又は 20mのいずれか長い方。
- C) 高度と同じ数値又は 30mのいずれか長い方。

問題 157

予報での風向は何方位で表すのか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 8 方位
- B) 16 方位
- C) 32 方位

問題 158

風力は何段階で表すのか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 12 段階
- B) 13 段階
- C) 14 段階

問題 159

気温は天気記号のどの場所に、数字で摂氏の度数を表すのか、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 右上
- B) 左上
- C) 右下

問題 160

気象に関する説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 等圧線の間隔が狭いほど風は弱い。
- B) 前線の配置等から風の強弱が推測できる。
- C) 天気記号の左上の数字で、摂氏の度数を表す。

問題 161

気象に関する説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 寒冷前線は、発達した積乱雲により、突風や雷を伴い短時間で断続的に強い雨が降る。前線が接近してくると南から南東よりの風が通過後は、風向きが急変し、西から北西よりの風になり、気温が下がる。
- B) 高気圧は、北半球では時計回りに等圧線と約 30 度の角度で中心から外へ向かって風を吹き出している。
- C) 海陸風は、日中は海上に向かって風が吹き、夜間は陸上に向かって風が吹く。

問題 162

気象に関する説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) ビル風は周辺の風より風速が速く継続して吹いていて、その建物群の配置や構成によって吹く風の種類が異なる。
- B) マイクロバーストと呼ばれるものは、直径が 4km 程度以下の下降流で、範囲は小さい。下降流はダウンバーストより強烈なものはない。
- C) 気温の低い場合はバッテリーの持続時間(飛行可能時間)が普段より短くなる可能性があるため注意が必要である。

問題 163

ダウンバーストの説明として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) ダウンバーストとは、積乱雲や積雲内に発生する強烈な下降流が地表にぶつかり、水平方向にドーナツ状に渦を巻きながら四方に広がってゆく状態をいう。
- B) ダウンバースト発生時間は比較的長時間続くものが多い。
- C) ダウンバーストは、通常の観測網で探知しやすい。

問題 164

以下の説明はどの前線の説明になるか、正しいものを一つ選びなさい。

「層状の厚い雲が段々と広がり近づくとき気温、湿度は次第に高くなり、時には雷雨を伴う時もあるが、弱い雨が絶え間なく降る。通過後は北東の風が南寄りに変わる。」

- A) 寒冷前線
- B) 温暖前線
- C) 閉塞前線

問題 165

寒冷前線の説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 停滞前線とは、寒冷前線が温暖前線に追いついた前線である。

- B) 梅雨前線とは、四季の変わり目に出現する長雨のうち、特に顕著な長雨、大雨をもたらす。
- C) 寒冷前線は、発達した積乱雲により、突風や雷を伴い短時間で断続的に強い雨が降る。

問題 166

風に関する説明として、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 風向は風が吹いてくる方向で、例えば、北の風とは北から南に向かって吹く風をいう。
- B) 一般に地表の粗度が大きいほど、高さによる風速の変化は小さくなる。
- C) 海陸風は海と陸との気温差によって生じる局地的な風で、日本では日差しの強い夏の沿岸部で顕著に見られる。

問題 167

「無人航空機操縦者の心得」に関する次の記述の中で、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機の飛行による人の死傷、第三者の物件の損傷、飛行時における機体の紛失又は他の無人機との衝突若しくは接近事案が発生した場合には、事故の内容に応じ、直ちに警察署、消防署、その他必要な機関等へ連絡するとともに、厚生労働大臣に報告する。
- B) 飛行中は、気象の変化に注意し、天候が悪化しそうになれば、飛行途中でもただちに帰還させるか、又は緊急着陸するなど、安全を第一に判断する。危険な状況になった場合に、適切に対応できるだけの能力を身に付けておくことは必要であるが、危険な状況になる前にそれを察知して回避することが操縦者としてより大切である。
- C) 無人航空機の事故のうち、十分に監視をしていなかったことが原因となる事故が多発している。無人航空機の飛行する空域や場所には、他の航空機をはじめ、ビルや家屋といった建物や自動車、電柱、高圧線、樹木などの飛行の支障となるものが数多く存在する。飛行に際しては、周囲の監視が最大の安全対策である。

問題 168

「無人航空機操縦者の心得」に関する次の記述の中で、誤っているものを一つ選びなさい。

- A) 無人航空機の保険は、車の自動車損害賠償責任保険(自賠責)のような強制保険はなく、全て任意保険であるが、万一の場合の金銭的負担が大きいので、保険に加入しておくといよい。無人航空機の保険には、機体に対する保険、賠償責任保険などいろいろな種類や組合せがあるので、自機の使用実態に即した保険に加入することが推奨される。
- B) 特定飛行を行った場合には、飛行記録、日常点検記録、点検整備記録を遅滞なく飛行日誌(紙又は電子データ)に記載する。特定飛行に該当しない飛行の場合、飛行日誌への記載は好ましくない。また、リスクに対する対応が不十分と感じた場合は、今後の飛行において気を付ければよく、特に記録を行うことは不要である。
- C) 無人航空機の事故は、飛行前の様々な準備不足が直接的又は間接的な原因となっていることが多いことから、事前の準備を怠らないこと。レクリエーション目的で飛行する場合でも、業務のために飛行する場合でも、安全に飛行するためのルールに関する情報、リソース、ツールを入手すること。

問題 169

カテゴリーⅢ飛行について、正しいものを一つ選びなさい。

- A) カテゴリーⅢ飛行を行う場合、無人航空機を飛行させる者は、飛行の形態に応じてリスクの分析と評価を行い、その結果に基づく非常時の対処方針や緊急着陸場所の設定などのリスク軽減策の内容を記載した飛行マニュアルの提出を含めて、運航の管理が適切に行われることについて申請しなければならないが、飛行の許可・承認の審査において保険に加入するなど賠償能力を有することの確認までは求められない。
- B) カテゴリーⅢ飛行を行う場合には、操縦者は一等無人航空機操縦士の技能証明の取得が必要である。取得後は、国土交通大臣の許可・承認を受ける必要はない。運航管理体制の構築に当たっては、操縦者がリスクの高い飛行を行うことについて無人航空機を飛行させる者としての責任を自覚し、運航の中心的な役割を果たさなければならない。
- C) カテゴリーⅢ飛行については、通達「無人航空機の飛行に関する許可・承認の審査要領(カテゴリーⅢ飛行)」に従って、当該申請に係る飛行開始予定日の20開庁日前までに申請書を国土交通省航空局に提出しなければならない。

問題 170

クライアントからの依頼で、地上150m以上の空域を飛行させなければならなくなった。この場合、飛行許可承認申請の提出先として、正しいものを一つ選びなさい。

- A) 東京航空局長又は大阪航空局長
- B) 国土交通省
- C) 航空局東京空港事務所長又は関西空港事務所

正解:

001-010 CBCBABBCAB
031-040 BABBABAABC
061-070 CBAAABAACB
091-100 CCABCCCBCC
121-130 BCCAACBBCC
151-160 CABAACABBA

011-020 BCCBBBCCAC
041-050 ACAACBBCCB
071-080 CCCACCCBAB
101-110 CACBACBACB
131-140 CBBBACCACC
161-170 CBABABABCC

021-030 BABACABCCB
051-060 BABCCCCBBC
081-090 ABCAACBBCC
111-120 BCBCBAABBA
141-150 CCABCBABCA

解説:

問題 1 正解:C

指定試験機関においては、実地試験を受ける前に学科試験に合格しておく必要がある。

問題 2 正解:B

一等免許は二等免許の上位にあたり、一等免許をもっていれば二等免許は含まれるので新たに取得する必要はない。

問題 3 正解:C

趣味の目的で飛行する場合でも事前の準備を怠らないこと。

問題 4 正解:B

プロペラガードは、被害軽減のために装備するものであって、騒音対策のために装備するものではない。

問題 5 正解:A

「助言はしない」が誤り。補助者は気象状況の変化や、第三者の進入等を知らせる等、操縦者に助言をすることが求められる。

問題 6 正解:B

A は、ベテランだから大丈夫ということはない。C は、天候の悪化が予想される場合は、飛行の中止が推奨される。

問題 7 正解:B

「第三者に分からないような目立たない服装を心がける」が誤り。飛行を行う関係者であることが容易にわかるような服装が推奨される。

問題 8 正解:C

「保護具は必要ない」が誤り。操縦の自信有無に関わらず、安全のためヘルメットや保護メガネなどの保護具の装着が推奨される

問題 9 正解:A

「気になるところがあれば飛行終了後に必ず整備する」が誤り。気になるところがあれば、必ず整備をしてから飛行を開始する。

問題 10 正解:B

衝突防止装置を過信せず、鳥等にも十分な注意を払うべきである。

問題 11 正解:B

「機体の回収を最優先に考える」が誤り。正しくは「機体が通電している場合は電源を切るなど速やかに措置を講ずる」である。

問題 12 正解:C

「国家公安委員長」が誤り。事故が発生した日時及び場所等の必要事項の報告先は、「国土交通大臣」である。

問題 13 正解:C

A は、無人航空機ではなく「航空機」の一つに分類される。B は、100g未満の模型航空機は無人航空機に分類されない。

問題 14 正解:B

「200g 以上」が誤り。無人航空機の重量的な定義は「100g 以上」である。

問題 15 正解:B

「人が乗ることができる座席の有無を意味するもの」という部分が誤り。無人航空機の定義において、「構造上人が乗ることができないもの」とは、単に人が乗ることができる座席の有無を意味するものではない。

問題 16 正解:B

A は、効力停止は 1 年以内。C は、損害賠償責任を負う場合がある。

問題 17 正解:C

操縦者が負うことのある責任には、「刑事責任」「民事責任」があり、また「行政処分」を受けることがある。

問題 18 正解:C

A は、事前通報が困難な場合は事後に通報する必要はある。B は、必ず飛行計画を立てる。

問題 19 正解:A

ベテランパイロット且つ飛行現場を熟知している場合であっても、飛行計画の作成は必要である。

問題 20 正解:C

特別な要件が無い限り「飛行日翌週の気象情報等」は、調査の必要はない。

問題 21 正解:B

特別な要件が無い限り「日出や日没の方角等」は、調査の必要はない。

問題 22 正解:A

B は、登録記号を表示することが求められている。C は、機体登録の年数を問われているので、第一種・二種共に有効期間は 3 年である。機体認証の年数と混同しやすいので注意が必要。

問題 23 正解:B

「一律にリモート ID 機能の搭載は免除される」が誤り。リモート ID 機能の搭載は一律で免除されない。(事前登録等の例外は除く)

問題 24 正解:A

製造者が機体の安全性に懸念があるとして回収(リコール)しているような機体や、事故が多発していることが明らかである機体など、あらかじめ国土交通大臣が登録できないものと指定したものは登録を受けることができない。

問題 25 正解:C

リモート ID を登録していても、登録記号は表示しなければならない。

問題 26 正解:A

最大離陸重量 25Kg 以上の機体は「25mm」以上、最大離陸重量 25Kg 未満の機体は「3mm」以

問題 27 正解:B

十分な強度を有する紐(ひも)など(長さが 30m 以内のもの)により係留して行う飛行は、リモート ID 機能の搭載は免除されるが、機体登録は免許されない。

問題 28 正解:C

A は、技能証明と機体認証が必要である。B は、カテゴリー II A 飛行に該当するため、許可承認申請が必要である。

問題 29 正解:C

二等無人航空機操縦士保有者が第二種機体認証の機体を飛行させた場合の「目視外飛行」は、カテゴリー II B に該当し、許可・承認は必要ない。

問題 30 正解:B

カテゴリー II A 飛行は許可承認が必要である。

問題 31 正解:B

最大離陸重量 25 kg以上の無人航空機の飛行は、カテゴリーⅡB 飛行ではなく、「カテゴリーⅡA 飛行」である。

問題 32 正解:A

人口集中地区上空は、カテゴリーⅡB 飛行なので、許可・承認は必要ない。

問題 33 正解:B

A は、カテゴリーⅠはリスクの低い飛行に分類される。C は、保険加入は義務ではないが、最もリスクの高い飛行なので飛行の内容に応じた保険に加入していることが推奨される。

問題 34 正解:B

「第二種機体認証以上の機体と二等操縦士技能証明以上の資格」という部分が誤り。正しくは「第一種機体認証の機体と一等操縦士技能証明の資格」である。

問題 35 正解:A

「カテゴリーⅡA 飛行をする場合、許可承認申請は省略することができる」が誤り。省略できるのは「Ⅰ」と「ⅡB」飛行である。

問題 36 正解:B

問われているのはカテゴリーⅡなので、10 開庁日前である。

問題 37 正解:A

夜間飛行は、「カテゴリーⅡA」ではなく、「カテゴリーⅡB」である。

問題 38 正解:A

この問題は、機体認証の年数を問われているので、正しくは第一種機体認証は 1 年、第二種機体認証は 3 年である。機体登録の年数と間違いやすいので注意が必要。

問題 39 正解:B

B の通り、技能証明の有効期間は、一等、二等ともに 3 年である。

問題 40 正解:C

無人航空機を飛行させる場合且つ飛行計画の通報を行っている場合でも、航空機の航行安全は、人の生命や身体に直接かわるものとして最大限優先すべきものであることから、あくまで進路の優先権は航空機側である。

問題 41 正解:A

各都道府県知事が設定した」という部分が誤り。人口集中地区は 5 年に 1 度実施される国勢調査の結果を受け設定された地区になる。

問題 42 正解:C

A は、「人」も「物件」も第三者のことを指す。B は、食品を輸送することは「危険物輸送」に含まれない。また、食品を投下することは「危険物の輸送」ではなく、「物件投下」に該当する。

問題 43 正解:A

「無人航空機を使って食料品を運搬し、目的地に置く飛行」は危険物輸送にも物件投下にも該当しないため、特定飛行の対象ではない。

問題 44 正解:A

「目視内飛行」は規制されない。規制対象となるのは「目視外飛行」である。

問題 45 正解:C

A は、空港等の周辺の上空の空域は規制されている。B は、高度 150m 以上の上空の飛行が規制されている。

問題 46 正解:B

「緊急着陸地点は万一の対策なので照明までは必要ない」が誤り。緊急着陸地点も照明は必要である。

問題 47 正解:B

「地上照明を当てている場合も灯火装備は必須である」が誤り。無人航空機の飛行範囲が照明等で十分照らされている場合は、推奨はされるが必須ではない。

問題 48 正解:C

A は、人口集中地区は 5 年に一度の国勢調査の結果を受け設定された地区であり、各都道府県知事が決定し、制定するものではない。B は、人口集中地区上空の飛行許可があっても、緊急用務空域を飛行させることはできない。

問題 49 正解:C

A は、補助者が操縦者の隣りで操縦者に機体の正しい位置や向きを伝えることが出来る場合においても目視外飛行となる。B は、モニターを注視することも目視外飛行となる。

問題 50 正解:B

B は、目視「内」飛行の説明である。

問題 51 正解:B

A と C は、「補助者を配置しない場合に追加する必要がある装備」ではない。

問題 52 正解:A

B と C は、「補助者を配置しない場合に追加する必要がある装備」ではない。

問題 53 正解:B

A は、夜間飛行には特に影響はない。C は、ビジョンセンサが夜間に対応している機体かどうかにもよるが、特に後者の場合、衝突回避・姿勢安定などの安全機能が使用できない可能性があるので注意が必要である。

問題 54 正解:C

A は、樹木等の自然物も物件にあたらない。B は、電柱や電線は第三者の物件にあたる。

問題 55 正解:C

「危険物輸送に係る承認は不要である」が誤り。係留及び立入管理措置をしていても、「危険物輸送」は承認が必要である。

問題 56 正解:C

「自然発生的なものでも該当する」が誤り。自然発生的なものは該当しない。

問題 57 正解:C

自己所有地でも人口集中地区であれば許可が必要である。

問題 58 正解:B

A は、経路直下だけでは不十分である。C は、広く取れるなら取った方が良い。

問題 59 正解:B

「一切の助言を控えるべきである」が誤り。補助者は、必要に応じ操縦者への助言が求められる。

問題 60 正解:C

A は、飲酒はわずかでも飛行を行ってはならない。B は、薬物は医薬品も含まれるので飛行を行ってはならない。ましてや、眠気がある状態での飛行は危険である。

問題 61 正解:C

A は、「アルコール」とはアルコール飲料やアルコールを含む食べ物を指し、「薬物」とは麻薬や覚せい剤等の規制薬物に限らず、医薬品も含まれるので注意が必要。B は、前回の飛行の有無にかかわらず、確認は常に必要。

問題 62 正解:B

「無人航空機を素早く先に離陸」が誤り。先に離陸させてはならない。

問題 63 正解:A

「損害賠償を求められた時にのみ国土交通大臣に報告する義務がある」が誤り。損害賠償を求められるかどうかに関わらず、国土交通大臣に報告する義務がある。

問題 64 正解:A

B は、「緊急時のみ」が誤り。計器飛行方式は、航空交通管制機関が与える指示等に常時従って行う飛行の方式である。C は、「有視界飛行方式」の説明である。

問題 65 正解:A

「航空交通管制機関の指示に従う必要はない」が誤り。空港及びその周辺は、計器飛行方式・有視界飛行方式を問わず、航空交通管制機関の指示に従う必要がある。

問題 66 正解:B

「高度 150m未満の飛行では、航空機より無人航空機側が優先される」が誤り。150m未満の飛行でも、無人航空機側より航空機側が優先される。

問題 67 正解:A

B、C 共に、省略できない。

問題 68 正解:A

B は、飛行する空域の状況(空港・管制区域・航空路等)の確認は、安全のため必要である。C は、有視界飛行方式で飛行している航空機も従わなければならない。

問題 69 正解:C

「空港の上空のみ」の部分が誤り。「空港等及びその周辺の空域」が正解。

問題 70 正解:B

A は、「安全表面」というのは存在せず、「転移表面」の説明である。C は、「旋回表面」というのは存在せず、「水平表面」の説明である。

問題 71 正解:C

C は、「外側水平表面」の説明である。「最終直線進入表面」という制限表面名は存在しない。

問題 72 正解:C

新千歳空港・成田国際空港・東京国際空港・中部国際空港・関西国際空港・大阪国際空港(伊丹空港)・福岡空港・那覇空港では、進入表面等の上空の空域に加えて、進入表面若しくは転移表面の下の空域又は空港の敷地の上空の空域についても飛行禁止空域となっている。

問題 73 正解:C

A は、ただちに飛行を中止する。B は、重量 100g未満の模型航空機であっても飛行禁止である。

問題 74 正解:A

「国や地方公共団体からの依頼は受けていないが自発的に無人航空機を飛行させた」が誤り。国や地方公共団体からの依頼が必要である。

問題 75 正解:C

A は、地方公共団体が定める条例にて飛行が禁止されている公園等は、特定飛行の催し場所上空の飛行が認められている場合であっても飛行不可である。B は、飛行自粛要請空域もある。

問題 76 正解:C

A は、模型航空機は、重量 100g 未満の機体である。B は、緊急用務空域は模型航空機も禁止されている。

問題 77 正解:C

A は、緊急用務空域においては、模型航空機の飛行も禁止されている。B は、航空交通管制圏においては、模型航空機の飛行も禁止されている。

問題 78 正解:B

A は、アルコール又は薬物の影響下で無人飛行機を飛行させたとき。C は、事故が発生した場合に飛行を中止し負傷者を救護するなどの危険を防止するための措置を講じなかったとき。

問題 79 正解:A

「飛行日誌不携行(不携帯)」の罰則は、「10 万円以下の罰金」である。

問題 80 正解:B

「2 年以下の懲役又は 50 万円以下の罰金の可能性がある」が誤り。アルコール又は薬物の影響下で無人航空機を飛行させたときは、「1 年以下の懲役又は 30 万円以下の罰金の可能性がある」である。

問題 81 正解:A

A は、飛行マニュアルに記載すべき事項には該当しない。飛行マニュアルに記載すべき事項は、a.無人航空機の定期的な点検及び整備に関する事項。b.無人航空機を飛行させる者の技能の維持に関する事項。c.当該無人航空機の飛行前の確認に関する事項。d.無人航空機の飛行に係る安全管理体制に関する事項。e.事故等が発生した場合における連絡体制の整備等に関する事項。

問題 82 正解:B

パワードリフト機(Powered-lift)の飛行にあたっては、回転翼航空機(マルチローター)及び飛行機の両方の種類の限定に係る資格が必要となる。

問題 83 正解:C

「取り消された日から 1 年以内の者」が誤り。正しくは「取り消された日から 2 年以内の者」である。

問題 84 正解:A

「道交法」が誤り。正しくは「航空法」である。

問題 85 正解:A

「実地試験に合格しなければ、学科試験を受けることができない」が誤り。正しくは「学科」試験に合格しなければ、「実地」試験を受けることができない。

問題 86 正解:C

技能証明の有効期間は「3」年であり、その更新を申請する者は、「登録更新講習機関」が実施する無人航空機更新講習を有効期間の更新の申請をする日以前「3」月以内に修了したうえで、有効期間が満了する日以前「6」月以内に国土交通大臣に対し技能証明の更新を申請しなければならない。

問題 87 正解:B

A は、保管中のバッテリー発火は重大インシデント報告に該当しない。C は、重大インシデント報告ではなく、事故報告となる。

問題 88 正解:B

「重大インシデント報告の対象となる」が誤り。重傷に至らない無人航空機による人の負傷が「重大インシデント報告」の対象となり、「重症」の場合は重大インシデント報告ではなく、「事故報告」の対象となり、当該事故が発生した日時及び場所等の必要事項を国土交通大臣に報告しなければならない。

問題 89 正解:C

物件の損傷の規模や損害額を問わず、全ての損傷が「事故報告」の対象となる。特定飛行の催し場所上空の飛行が認められている場合であっても飛行不可である。B は、飛行自粛要請空域もある。

問題 90 正解:C

「国土交通大臣が指定した原子力事業所も含まれる」が誤り。「国土交通大臣」ではなく「国家公安委員会」が指定した原子力事業所が含まれる。

問題 91 正解:C

対象となる空港は「全国全ての空港」ではなく、国土交通大臣が指定する空港となる。具体的には「新千歳空港、成田国際空港、東京国際空港、中部国際空港、大阪国際空港、関西国際空港、福岡空港、那覇空港」の 8 空港が該当する。

問題 92 正解:C

A は、一時的に対象施設が追加されることがある。B は、都道府県知事が指定した庁舎等は重要施設にはあたらない。

問題 93 正解:A

B は、「いかなる場合でも飛行禁止」が誤り。飛行に必要な手続きを行えば飛行させることができる。C は、「例外にあたる」が誤り。国又は地方公共団体の業務を実施するために行う飛行の場合であっても、対象施設の管理者の同意が必要となる。

問題 94 正解:B

A は、命令しないと飛行の妨害等が出来ない訳ではない。C は、イエローゾーンではなくレッドゾーンでの罰則である。

問題 95 正解:C

300mが正解

問題 96 正解:C

「外国公館等」・「防衛関係施設」・「主要空港」の全てが国土交通大臣指定ではない。「外国公館等」(外務大臣指定)・「防衛関係施設」(防衛大臣指定)・「主要空港」(国土交通大臣指定)となっている。

問題 97 正解:C

A は、技適マークがあっても、使用周波数帯によっては免許が必要である。B は、「空中線電力が 2W 以下」が誤り。正しくは「空中線電力が 1W 以下」である。C の補足として、微弱無線局(ラジコン用)は、無線局免許や無線従事者資格が不要であり、主に、産業用の農業散布ラジコンヘリ等で用いられている。

問題 98 正解:B

「影響を与えることはない」が誤り。影響を与えるので、付近での使用は避ける等、運用の際には配慮が必要である。

問題 99 正解:C

「ローターの数が多いほど故障に対する耐性が低下し、ペイロード(積載可能重量)が減る」が誤り。回転翼航空機(マルチローター)はモーター性能を同一とした場合、ローターの数が多いほど故障に対する耐性が「向上」し、ペイ

ロード(積載可能重量)が「増える」。

問題 100 正解:C

「それ未満での低速飛行も問題なく飛行できる」が誤り。最低速度より遅く飛行してはならない。

問題 101 正解:C

ローターの反トルクバランスを崩すと機体の水平回転が始まる。揚力を得ている状態で、右もしくは左回転を指示すると、指示した回転方向のローターの回転数が下がり、トルクバランスが崩れ回転が始まる。

問題 102 正解:A

スロットル:上昇・降下。ラダー:機首方向の旋回。エルロン:左右移動。エレベーター:前後移動。

問題 103 正解:C

全てのローターの回転方向を統一させると、反トルクの相殺が全く効かず、回転するので誤り。クロックワイズ方向(時計回り)とカウンタークロックワイズ方向(反時計回り)を交互に配置することにより、半トルクを相殺し、安定した水平方向回転安定制御が可能となっている。

問題 104 正解:B

「進行方向のローターの回転数を一時的に下げ、反対のローターの回転数を上げる」が正解。

問題 105 正解:A

「効率よく揚力を得られる」が誤り。地面効果により機体が不安定になる可能性があるため、離陸後は素早く地面効果の影響を受けない高度まで上昇させる等の対応が推奨される。

問題 106 正解:C

A は、「地面効果の影響は小さくなる」が誤り。地面効果の影響は大きくなる。B は、「騒音の影響が小さくなる」が誤り。一般に小型の機体よりも騒音の影響が大きくなる。

問題 107 正解:B

A は、上昇下降はスロットルの舵で行う。C は、地面効果の影響を受けないようにすることが大切。

問題 108 正解:A

「空力的に効率良く揚力を得ることが出来る」が誤り。飛行機と比べると効率が悪い。マルチローターに比べては効率が良い。

問題 109 正解:C

「上下移動を補助する役割がある」が誤り。正しくは「向き(ヨー方向)を変える操縦に用いたりする役割がある」である。

問題 110 正解:B

A は、回転数だけでなくピッチでもコントロールする。C は、回転数は一定ではない。

問題 111 正解:B

「横滑り角」が誤り。正しくは「迎角」である。機体の前後・上下を含む面に空気流入の向きを投影したときに、前後軸とのなす角を「迎角」という。

問題 112 正解:C

「大きくした」が誤り。過度に旋回半径を「小さくする」と失速する可能性がある。

問題 113 正解:B

慣性力が大きいので障害物の回避はし辛くなる。

問題 114 正解:C

A は、「エルロンである」が誤り。正しくは「エレベーターである」。B は、「離着陸距離が変わることはない」が誤り。正しくは「離着陸距離が変わる」である。

問題 115 正解:B

「ラダーとエレベーター」が誤り。正しくは「エルロンとエレベーター」である。

問題 116 正解:A

「角度を迎角と滑空角で表す」が誤り。正しくは「角度を迎角と横滑り角で表す」である。

問題 117 正解:A

「機体に働く力の崩れたとき」が誤り。正しくは「機体に働く力が釣り合ったとき」である。

問題 118 正解:B

「飛行高度・大気状態によらず一定である」が誤り。ペイロードの最大積載量とペイロード搭載時の飛行性能は飛行高度、大気状態によっても異なり、また飛行機の場合は離着陸エリアの広さによっても異なる。

問題 119 正解:B

B は、「IMU」の説明ではなく、「加速度センサ」の説明である。

問題 120 正解:A

B は、ジャイロセンサとは、回転角速度の測定を実現する慣性センサの一種である。C は、加速度センサとは、加速度の測定を目的とした慣性センサである。

問題 121 正解:B

A は、「送信機」の説明である。C は、「地磁気センサ」の説明である。

問題 122 正解:C

放電(飛行)中の電圧降下は「電気回路の配線抵抗とバッテリーの内部抵抗」内部抵抗」によって決まる。

問題 123 正解:C

「寿命は短い」が誤り。正しくは「長寿命」である。

問題 124 正解:A

上下操作は「スロットルスティック」にて行う。

問題 125 正解:A

「モード1とモード2でも同じである」が誤り。回転翼航空機(マルチローター)のエレベーター舵は、モード1とモード2で違う。モード1は、左スティックの上下で、モード2は、右スティックの上下である。

問題 126 正解:C

C は、回転翼機(マルチローター)の特徴ではなく、飛行機の特徴である。

問題 127 正解:B

リチウムポリマーバッテリーには、エネルギー密度が高い、電圧が高い、「自己放電が少ない」、メモリ効果(充電容量が次第に減少する効果)が小さい、電解質が可燃物である等の特徴がある。

問題 128 正解:B

「飛行時間が延びる」と「放電能力が向上する」が誤り。正しくは、冬季の飛行では飛行時間が半減することがある。気温が低下すると放電能力が極端に低下する。

問題 129 正解:C

A は、メモリ効果は小さい(低い)。B は、電解質が可燃物なので、取扱いは注意が必要である。

問題 130 正解:C

「オイル等を混ぜた混合燃料が使用されることはない」が誤り。燃料は混合燃料を使用することが多い。燃料にオイル等を混ぜた混合燃料を使用する場合は、適切な混合比での使用が必要である。

問題 131 正解:C

飛行機の離着陸の方向は、向かい風を選ぶのが原則である。横風であってもできる限り向かい風方向を選択する。追い風で行うと失速の危険性が生じ、失速しない速度にすると滑走路を逸脱する危険が生じる。

問題 132 正解:B

A は、「離陸時点に戻すように心がける」が誤り。正しくは「離陸地点などに戻すことを前提とせず」である。C は、「決して行ってはならない」の部分が誤りで、各種センサ異常の場合は、センサー類に頼らない手動操作による操作が必要となる場合がある。

問題 133 正解:B

「緊急着陸地点を用意する必要はない」が誤り。緊急着陸地点を用意する必要がある。

問題 134 正解:B

A は、「緊急時に行くと大変危険なので禁止されている」が誤りで、禁止されている訳ではない。C は、「緊急時の対応手順を決めておくことは推奨されない」が誤りで、推奨されている。

問題 135 正解:A

「より直進性が高くなる」が誤り。正しくは「より障害物を回り込むことができるようになる」である。

問題 136 正解:C

A は、電波は送信アンテナから四方八方へ放射状に広がって行くが、アンテナや通信環境によって広がり方が異なる。B は、電波は拾いやすくなるが、強まることはない。

問題 137 正解:C

「水の反射により増殖される」が誤り。電波は水中で吸収されて大きく減衰するのが電波の特徴である。

問題 138 正解:A

B の「減衰」の説明は、電波は、進行距離の 2 乗に反比例する形で電力密度が減少する(進行距離が 2 倍になると電波の電力密度は $1/4$ になる)。C の「回折」の説明は、周波数が低い(波長が長い)ほど、より障害物を回り込むことができるようになる。

問題 139 正解:C

「送信機の再起動にて操縦の復帰を試みる」が誤り。正しくは「送信機をできるだけ高い位置に持ちアンテナの向きを変えて操縦の復帰を試みる」である。

問題 140 正解:C

「お互いの距離が長くなればなるほど小さくなる」が誤り。フレネルゾーンの半径は周波数が高く(波長が短く)又は、「お互いの距離が短くなればなるほど小さくなる」。

問題 141 正解:C

169MHz 帯は主に、2.4GHz 帯及び 5.7GHz 帯の無人移動体画像転送システムの無線局のバックアップ回線として使用される。

問題 142 正解:C

「1 日の飛行であれば違う場所での再磁気キャリブレーションの必要はない」が誤り。正しくは「飛行させる場所によ

り、地磁気の方向は異なるので、磁気キャリブレーションを行うことが推奨される」。

問題 143 正解:A

B は、「3 個」が誤り。正しくは「4 個」である。C は、日本国内では米国の GPS と日本の「みちびき」しか利用できないということはない。(ロシア:GLONASS、中国:BeiDou などの GNSS を受信する機種も存在する)

問題 144 正解:B

B は、飛行後に点検しなければならない項目ではなく、飛行後の点検の後に実施する「運航終了後の点検」項目となっているため誤りである。

問題 145 正解:C

「飛行日誌に記載する必要はない」が誤り。特定飛行に該当しない飛行の場合でも、飛行日誌に記載することが望ましい。

問題 146 正解:B

ガソリンは危険物に該当するため、乗用車等で運搬する場合には、消防法で定められた「22 リットル」以下の専用の容器で運搬することが必要である。

問題 147 正解:A

下場所に補助者を配置しない場合、物件投下行う際の高度は「1m以内」である必要がある。

問題 148 正解:B

申請書については、当該申請に係る飛行開始予定日の「10 開庁日前」までに、所定の提出先に提出する必要がある。

問題 149 正解:C

「義務付けられている」が誤り。損害保険の加入に関しては義務ではない。無人航空機を飛行させる場合には、万一の場合に備え賠償能力を確保しておくことが望まれるが、その対応としては、損害保険に加入しておくことが有効と考えられる。

問題 150 正解:A

B は、気象用語で、積乱雲や積雲内に発生する強烈な下降流が地表にぶつかり、水平方向にドーナツ状に渦を巻きながら四方に広がってゆく状態のことを言う。C の、ボルテックス・リング・ステートは、機体を垂直降下させる時に、吹きおろした空気が再び吸い込まれ、回転翼の上下で空気の再循環が発生し急激に揚力を失う現象である。

問題 151 正解:C

「ゆっくり着陸させる」が誤り。正しくは「速やかに着陸させる」である。

問題 152 正解:A

「追い風方向」が誤り。正しくは「向かい風方向」である。向かい風方向に滑走できるエリアを確保できたら離陸操縦に入る。因みに着陸も向かい風方向に行う。

問題 153 正解:B

「ボルテックス・リング・ステート現象」の発生を活用し、機体をコントロールする」が誤り。ボルテックス・リング・ステートとは、自分自身のダウンウォッシュに落ち込み揚力が減少することであるので、危険な状態と言える。

問題 154 正解:A

CRM を実現するために「TEM(ThreatandErrorManagement)」という手法が取り入れられている。

問題 155 正解:A

CRM(CrewResourceManagement)である。

問題 156 正解:C

飛行領域に危険半径(「高度と同じ数値又は30mのいずれか長い方」)を加えた範囲を、立入管理措置を講じて無人地帯とした後に飛行する。

問題 157 正解:A

予報では「8 方位」。観測では「16 方位」又は「36 方位」を用いている。

問題 158 正解:B

風力は、風力 0～12 までの「13 段階」で表す。

問題 159 正解:B

気温は天気記号の「左上」に数字で、摂氏の度数を表す。

問題 160 正解:A

「風は弱い」が誤り。等圧線が狭いほど「風は強い」。

問題 161 正解:C

「日中は海上に向かって風が吹き、夜間は陸上に向かって風が吹く」が誤り。海陸風は、日中は、陸上に向かって風が吹き、夜間は、海上に向かって風が吹く。

問題 162 正解:B

「ダウンバーストより強烈なものはない」が誤り。ダウンバーストより強烈なものは存在する。

問題 163 正解:A

B は、「比較的長時間続くものが多い」が誤り。発生時間は数分から 10 分程度のものが多い。C は、「通常の観測網で探知しやすい」が誤り。通常の観測網では探知されない局地的なものである。

問題 164 正解:B

「温暖前線」の説明である。

問題 165 正解:A

A の記載内容は、「停滞前線」の説明ではなく、「閉塞前線」の説明である。

問題 166 正解:B

「小さくなる」が誤り。正しくは「大きくなる」である。一般的に地表の粗度が大きいほど、高さによる風速の変化は大きくなる。

問題 167 正解:A

「厚生労働大臣に報告する」が誤り。正しくは「国土交通大臣に報告する」。

問題 168 正解:B

「特定飛行に該当しない飛行の場合、飛行日誌への記載は好ましくない。また、リスクに対する対応が不十分と感じた場合は、今後の飛行において気を付ければよく、特に記録を行うことは不要である」が誤り。特定飛行に該当しない飛行の場合でも、「飛行日誌に記載することが望ましい」。また、リスクに対する対応が不十分と感じた場合は、今後の飛行に備えた「記録も行うことが望ましい」。

問題 169 正解:C

A は、「保険に加入するなど賠償能力を有することの確認までは求められない」が誤り。飛行の許可・承認の審査において、無人航空機を飛行させる者が適切な保険に加入するなど賠償能力を有することの確認を行うこととしている。B は、「国土交通大臣の許可・承認を受ける必要はない」が誤り。運航の管理が適切に行われることについて、国土交通大臣の許可・承認を受ける必要がある。

問題 170 正解:C

正解は「東京空港事務所長又は関西空港事務所」である。ただし、1.地上又は水上から150m以上の高さの空域。
2.空港等周辺。3.緊急用務空域。以上の3つ以外の申請宛先は、東京航空局長又は大阪航空局長である。